

1. 令和4年（2022年）5月17日 午前10時  
豊中市教育委員会会議を第二庁舎3階大会議室に招集する。

2. 本日の出席委員等

教	育	長	岩	元	義	継
教育長職務代理者			山	野	佳	世子
委		員	赤	尾	勝	己
委		員	松	本	裕	美
委		員	堀	田	博	史
委		員	黒	田	久	美子

3. 本日の議事日程

第1	議事録署名委員の指名について
第2	前回議事録の承認について
第3	教育長等の報告について
第4（議案第32号）	豊中市学校教育審議会委員の委嘱について
第5（議案第33号）	豊中市学校運営協議会委員の委嘱について
第6（議案第34号）	豊中市文化財保護審議会委員の委嘱について
第7（議案第35号）	豊中市いじめ防止等対策審議会委員の委嘱について
第8	その他

#### 4. 本日の出席事務局職員

事務局 長	小野 雄 慈
教育政策 監	中尾 栄 一
理事 事	藤原 二 郎
次 長	堤 昌 子
次長兼教育総務課長	田上 淳 也
教育総務課長補佐	松村 有
教育総務課長補佐	佐加 康 彦
学校施設管理課長	桑田 篤 志
学務保健課長	中積 崇
社会教育課長	大澤 亮 太
社会教育課主幹	清水 篤
読書振興課長	須藤 有 美
読書振興課主幹	西口 光 夫
学校給食課長	江川 勉
教職員課長	森山 幸 雄
教職員課主幹	湯浅 安 由 里
豊中市教育センター所長	森 真 理 子
学校教育課長	田中 克 嘉
学校教育課主幹	藤崎 直 紀
児童生徒課長	杉山 眞 紀
児童生徒課主幹	込山 隆 之
学び育ち支援課主幹	津田 晋
次長兼中央公民館長	弘中 伸 明

#### 5. 本日の書記

教育総務課総務係長	具志堅 興 紀
教育総務課主査	定光 絵 里

— 議 事 —

岩元教育長

ただいまから教育委員会会議を開催いたします。

まず、本日の教育委員会会議の進行について教育委員のみなさまにお諮りします。

新型コロナウイルスの感染予防による会議時間の短縮のため、本日の会議の進行については、議事日程の朗読や議案等の朗読は省略したいと思いますがお異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

それでは、本日の教育委員会会議の進行につきましては、議事日程の朗読や議案の朗読は省略させていただきます。

本日の会議の成立要件をご報告ください。

具志堅書記

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、教育長及び在任委員の過半数が出席されていますので、本日の会議は有効に成立していることを報告いたします。

岩元教育長

本日の議事日程については、議案書の1頁に記載のとおりです。

赤尾委員

動議を提出いたします。

日程第4から日程第7までの4案件につきましては、人事行政の公正かつ適切な執行の確保に関する案件であることから秘密会で審議することの動議を提出いたします。

また、このことに伴いまして、議事運営を効率的に行うため、日程第8の案件につきましては、日程第4から日程第7までの4案件に先んじて行うよう議事順序の変更動議を提出いたします。

岩元教育長

ただいま、日程第4から日程第7までの4案件について、秘密会で審議すること、また、議事運営を効率的に行うため、日程第8の案件につきまして、日程第4から日程第7までの4案件に先んじて行うよう議事順序の変更動議が提出されましたが、これについてご異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

ご異議がないので、日程第4から日程第7までの4案件について、秘密会で審議すること、また、議事運営を効率的に行うため、変更動議のとおり議事順序を変更することを決定いたします。

日程第1・議事録署名委員の指名につきましては、今回は赤尾委員と堀田委員にお願いいたします。

日程第2・前回議事録の承認につきましては、既に会議録を委員の皆様方に配布しております。また、署名委員のご署名をいただいておりますので、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

岩元教育長

ご異議がないので、前回議事録の承認につきまして、原案のとおり承認することいたします。

つづきまして、日程第3・「教育長等の報告について」を議題といたします。  
事務局より報告させます。

小野事務局長

私から3点、報告いたします。

まずは新型コロナウイルス感染症についてです。

4月21日に開催された大阪府の本部会議において、大阪モデルの指標が「非常事態（赤色信号）」を解除の目安を満たしていることから、「年度替わりの集中警戒期間」が4月24日に終了することに伴い、「非常事態（赤色信号）」を解除し、「警戒（黄色信号）」に移行することを決定しておりますが、市内の小中学校においては「府立学校における今後の教育活動等についての通知」の内容を踏まえ、引き続き感

染対策拡大防止対策の徹底を図っているところです。

5月15日現在、本市の累計感染者数は37,393人で、学校関係者の状況は、先月の教育委員会会議以降、昨日まで、のべ、小学校39校、中学校16校で合計376人の陽性者が確認され、小学校3校、中学校1校で学級休業を行っておりますが学校休業はございませんでした。

2点目は、令和4年度全国学力・学習状況調査についてです。

4月19日火曜日に、小中学校全校において、全国学力・学習状況調査を実施しました。主として、知識・技能と活用する力に関する内容を一体的に問う学力調査と、学習意欲や生活面等に関する調査となっています。

調査内容につきましては、小学校第6学年は国語・算数・理科の教科で行われました。中学校第3学年は新学習指導要領のもとで初めての調査となり、国語・数学・理科の教科で実施されました。理科においては、4年ぶりの調査となり、飼育観察記録やタッチパネルの性質についてタブレット端末を取り上げた出題などがありました。当日は、全ての小中学校において、混乱なく調査を無事終了したとの報告を受けております。

3点目は、令和4年度小学生すくすくウォッチ（5・6年生）についてです。

4月18日月曜日から、4月26日火曜日の間に、2回目の大阪府独自の取り組み「すくすくウォッチ」を実施しました。「すくすくウォッチ」とは、子どもたちに、各教科の学力に加え、ことばの力や文章や情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして、「見えない学力」といわれるねばり強さや好奇心などを育む取り組みとなっております。

内容につきましては、小学校第5学年の国語・算数・理科、小学校第5・6学年の「わくわく問題」という教科横断型問題と児童アンケートを実施しました。わくわく問題では、文章や図、表、グラフ、ホームページなどの資料を読み取り、自分の考えを書く問題や、答えが一つではない問題など、さまざまな教科の知識・技能を活用する問題となっていました。小学校全41校において実施し、混乱なく無事終了したとの報告を受けております。

岩元教育長

ただいまの報告について、何かご質問、ご意見等はございますでしょうか。

(ありませんの声あり)

岩元教育長

それではご質問等がないようですので、教育長等の報告についてを終了することにいたします。

つづきまして、日程第8・「その他」といたしまして、「庄内地域の「魅力ある学校づくり」計画の取り組み状況について」、「(仮称)南部コラボセンター開設に向けた取り組み状況について」の2点を、事務局より報告のうえ、意見交換を行います。

それでは、1点目の庄内地域の「魅力ある学校づくり」計画の取り組み状況についてについて、内容の説明をお願いいたします。

藤崎主幹

資料はその他(1)をご覧ください。1点目は、庄内さくら学園の開校準備に向けた検討状況についてご報告させていただきます。昨年度までは8つのチームの会議を構成し、検討してまいりましたが、昨年度に庄内さくら学園の校務分掌案を関係校で作上げたところでございますので、今年度は関係校の校務分掌案にあわせて教職員の担当を決めさせていただいているところでございます。そのうえで、Aの教務部会などの5部会と、B教科会、C学年会は全教職員で分担し、Dの独自教科のみ各学校の代表者で検討を進めているというものでございます。ちなみにDの部会は、学校から3名の教員の方、中学校からは4名の教員の方、計10名強の教職員の方と学校教育課で構成しているところでございます。また、昨年まで庄内さくら学園中学校と野田小学校の校長先生が、学校教育課において、検討のサポートをしていただいております。全体の方向性を取りまとめる推進委員会は、前年度のとおり取り組んでいるところでございます。

教科につきましては、独自教科についてモデル実施をしていこうとモデル事業の内容について議論しているところでございます。

時数の工夫につきましては、哲学カフェの場合では、道徳の時間を使えないかであったり、ミュージカルは、音楽の時間を使えないのかであったり、セリフの欄を空白にして、子どもたちが自分だったらどういうセリフがいいのかというようなケーススタディを取り入れた内容の場合では、国語の時間を使えないかなどを議論しているところでございます。

これらの取組みをふまえて、次年度の企画につなげていきたいと考えております。

もう1点はプログラミング教育ですが、プロポーザル方式にて受託事業者として、株式会社フロアシストというところに決定をしています。今後、滋賀大学の先生など

の協力を得ながら、考える力を育ていける教材を作っていきます。

また、つくる改革プロジェクトについてもご紹介させていただきます。教育委員会の予算ではございませんが、南部地域の活性化を目的に「創る改革プロジェクト」としてまちごと暮らすスクールという事業を実施しており、庄内さくら学園校区においてスポーツとして「インラインスケート」「eスポーツ」、「音楽」として、エルシステムジャパンという団体と「ふるさと納税」を活用して楽器を調達し、プロ奏者のサポートをいただきながら、音楽に取り組む企画などに取り組んでいるところでございます。

また、学校施設をどのように使用していくのかというところも、部活動や学び育ち支援課の事業とつくる改革プロジェクトとあわせてこれから調整していくところでございます。

概括的ではございますが、庄内さくら学園の開校については以上のとおりです。

つづきまして、南校の開校状況でございます。資料は、その他（１）の３頁から５頁でございます。庄内さくら学園では、開校準備委員会を構成し準備を進めてまいりましたが、南校では、いろいろな方に関わっていただけるようにという思いのもと、ラウンドテーブル形式で意見交換をしながら進めてまいりたいと考えております。

その他（１）の４頁及び５頁の対照表がございますので、それをもとにご説明させていただきます。設置目的は、庄内さくら学園の開校準備委員会と同様で情報共有と意見交換を行うこととでございます。次に所掌事務ですが、式典行事に関することは、閉校式などは学校ごとで、開校式は教育委員会を中心に庄内さくら学園で検討し対応してまいりましたので、この場で議論しなくてもよいと考えました。また、最近制度創設された学校運営協議会に関するものを付け加えさせていただきました。構成につきましては、庄内さくら学園と同様50名程度と考えております。これは事務局で運営できる上限人数として、場所の確保などの観点からこの程度が限度と考えております。

そして、参加をしていただける方につきましては、学校関係者、学校に在籍している児童・生徒とその保護者、建設に従事していただく事業者の方、学校運営に協力していただける方、そして地域に住まれている方、その他必要な方につきましては学校教育課で適宜追加をしていこうと考えております。

このような形式で月１回程度の頻度で開催してればと考えております。今後、通学路と庄内南小学校と千成小学校の同居に関することについて、意見調整を進めてまいりたいと考えております。

岩元教育長

ただいまの説明について、何かご質問、ご意見等はございますでしょうか。

松本委員

庄内さくら学園の方ですが、独自教科のモデル実施を今年度検討されているということですが、どのような形で行われるのですか。開催の手法などを教えてください。

藤崎主幹

モデルにつきましては、平田オリザ先生と打ち合わせをしているところですが、例えば小学校2年生に向けてどういった音楽活動ができるのか、コロナの影響もございますので、感染が広がらないように、楽器はどれを使用するのか、歌はどうするのかとかなどもふまえながら検討を進めております。

哲学カフェにつきましては、どの時間を使ってやっていくかというのが調整のポイントとなっています。総合学習の時間だけではまかないきれないところをどういった教材、どういった企画をやって、どの教科で行うのが一番良いのか。また教科になると、評価をしていかなければなりませんので、評価と教科設定、時間割の関係などを教職員の先生方で議論していただいておりますので、もう少し時間をいただけたらと思います。

堀田委員

その他（1）の2頁の庄内さくら学園の研究プロジェクトについてですが、ICT教育と書かれていて、プログラミング教育の業者選定が行われて、各校で実施されることは良いことだと思いました。高等学校が情報Iでプログラミングが必修になって、それにつなげるという意味合いも含めて、小中学校でこういった取り組みがあるということは非常に評価できるのではないかと思います。また、教科横断型のカリキュラムマネジメントもしていかなければならないという点で、庄内さくら学園の地域の児童・生徒の課題をふまえた取組み、例えば国語、言語的な能力の問題であるとか、そういった課題をもとに研究プロジェクトが、立ち上がらないといけないのではないかと思います。ICT教育は全般的なことでしょうし、他の地域を見ますと、教科横断型として言語能力をこの教科にきちんと割り当てて考えていこうというような取り組みがあるので、研究プロジェクトの中に授業研究であるとか、学力保障であるとか、大きな枠組みはありますが、子どもたちの実態や課題に応じた研究プロジェクトが立ち上がっていないのではという懸念があるので、まだ開校までに1年弱ありま

すので、そのあたりも是非検討課題にあげていただけたらと思います。

#### 藤崎主幹

独自教科につきましては、学力向上に向けて下支えする取組みというイメージをもたせていただいております。さきほどの説明で漏れておりましたが、キャリア教育の充実もあわせて進めているところがございます。子どもたちに将来の目標を意識していただきながら、そこに向けて子どもたちが勉強をする。そこに気付いていただくために子どもたちが興味をもってできるもの、例えば音楽を使った教材ですとか、民間事業者の知恵を借りながらプログラミングなど、そんな目的の中で今から具体的にプロットしていこうと思っております。学力向上を図りたいという思いもありますが、学力テストなどの直接的な指標だけではなくて、子どもたちの自己肯定感が向上したなども見て取れるようなことができれば良いなと先生方と議論しながら進めております。今のご意見をふまえて、取組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

#### 山野委員

地域の実態や、この大きなプロジェクトでの町おこしも含めて、子どもたちを育てるといふ南部の構想にあった目的にもう一度立ち返っていただいて、地域の背景や、子どもたちの実態や課題に沿った形でのカリキュラムは大事なことだと思います。教科横断的ということと、独自教科との兼ね合い等、授業時数の問題は非常に大事で、総合の時間数がかなり足りないというのもよく分かりますし、教科も学習指導要領に基づいてやっていかなければなりません。さきほど哲学カフェを道德の時間というお話がありましたが、道德の時間自体も「特別な教科 道德」ということで、内容項目の22項目をきちんと踏まえたうえで計画を立てていかないと、それは逸脱することになると思いますので、そのあたりの議論を現場の先生方としっかりしていただきたいと思います。また、子どもたちにどのような力をつけさせたいのかという点についても、自己肯定感もとても大事だと思いますし、課題のあるご家庭もたくさんあるとお聞きしますので、その子どもたちが自分たちで生きる力をつけるために、さまざまな提案が現場の先生からあがってきていると思いますが、授業時数の問題、学習指導要領の問題もありますので、そのあたりを踏まえた上で計画していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

黒田委員

独自教科を含めて、素敵な計画だと思いました。私の子どもにもいろいろな体験をさせたいと思いましたし、豊中市内にもっと広がっていけば良いなと感じました。ただし、先生方においては、新しいことを一つするだけでも大変なのに、これだけのことをするのは本当に大変だと思いました。また、通常の授業についても頑張っていたきたいです。成績として出てしまうものについて、この計画が負担となり、成績が下がってしまったと私は思われたくないです。計画を成功させて、豊中市の子どもたちが変わったら素敵だと思うので、先生や学力のフォローなど行っていただいて、ぜひ成功させていただきたいです。

岩元教育長

さきほど地域課題に即した学びについて、複数の委員の方からご意見がありましたので、現在の教科、独自教科の中身について、学校の先生方中心に進めていただいておりますけれど、昨年は新しい学校のグラウンドデザインを作って、それに基づいて子どもたちを育てていくという取り組みをベースにしながら、先生方は今の子どもたちの課題を着実に掴んでいると思います。それを踏まえてどのような学びをしていくのかという議論をしっかりといただいていると私は思います。ただそのことが、もう少し保護者のみなさんや地域のみなさんにこういう方向性でいこうと思っておりますという発信がいます。保護者や地域の皆さんに理解をいただけるように、しっかりと伝えていくことが求められていると思いますので、教育委員会会議でのご意見も踏まえて先生方と事務局を通じてキャッチボールしながら、そういったことも意識しながら開校に向けた準備を進めていただきたいと思います。

ほかに何かご質問等ございませんでしょうか。

(ありませんの声あり)

岩元教育長

それでは他にご質問等がないようですので、つづきまして、(仮称)南部コラボセンター開設に向けた取り組み状況についてについて、事務局より報告させます。

弘中次長

資料として、その他(2)をご覧ください。令和5年2月の開設に向けて進めております(仮称)南部コラボセンターについて進捗状況をご説明いたします。資料で

は、フロアごとに配置される施設とその施設の機能などを教育委員会部分についてまとめております。ハード整備の部分については資料には記載しておりませんが、現在躯体工事を現地で行っておりまして、6月以降に内装工事等を行い、検査等が終わりましたら、12月に引き渡しを受けて、2月のオープンに向けて、各施設の備品や書類の搬入とかシステム移転などを行う予定にしています。それぞれの施設の機能のソフト面に関しては、各施設の教育委員会に属する所属よりご説明いたします。まず、公民館につきましては1頁をご覧ください。ここに白丸で書いております、学校や南部コラボ内の施設等との緊密な連携のもと、現代的課題や生活課題の解決に資する事業を充実させるとともに、ICT機器やインターネットも活用して学習機会の充実を図る、ということをご大きな内容としまして、個別に中黒の点で書いております項目が、南部コラボセンターにおいて公民館が関わる予定となっている事業について列挙させていただいております。下の四角で囲っております放課後・土日の学習支援事業につきましては、今年度から公募によって事業者を選定したうえで、市内3校のモデル校で生徒一人ひとりの学習理解状況に応じた学習支援をすること、基本的には英語と数学を原則として支援をする予定にしております。そして、拡充のオンライン・オンデマンド講座の実施につきましては、非来館型のサービスとして、オンライン・オンデマンド講座を実施するというごことで、従来、オンライン講座、例えば、昨年度で言えば、大阪大学と連携したサイエンスカフェでありますとか、クリニックを開業されている心療内科の先生に発達障害とは何かというような講座を対面とオンラインの併用、大阪大学の講座につきましてはオンラインのみでさせていただきましたが、そういった形で実施してまいりました。今年度につきましても、現代的課題ということで、日本ウクライナ文化交流協会の方に今年の4月に来ていただきまして、文化的背景を含めたロシアとウクライナ問題の現状についてのお話しを対面とオンラインの併用で実施させていただいております。オンデマンド講座につきましては、まだ第一歩を踏み出せていないのですが、機器が揃い次第、オンデマンド講座につきましても実施していく予定としております。

須藤課長

資料は、引き続きその他(2)でございます。2頁の上から4行目あたりです。読書振興課 図書館と書かれている項目がございます。図書館は2階にあるということでこちらの項目にあります。これまで(仮称)南部コラボセンター近隣の地域につきましては、庄内図書館、庄内幸町図書館の2館が図書館サービスを提供してまいりました。令和5年2月よりこの2つの図書館を発展的統合し、隣接する(仮称)庄内さ

から学園や南部コラボセンター内の施設等と連携し、図書館サービスを開始いたします。これまでと同様、図書館の地域の知の拠点としての機能とともに、多世代が交流、居場所としての機能を果たせる役割を担う予定でございます。読書振興課の図書館の下の項目には、現在行っている事業を挙げております。一方で、新規の事業もございまして、新規サービスの項目にございますように、今までの図書館が静かであるべきということではなく、一般のフロアでは会話や読み聞かせを楽しめるように考えております。ただし、静かに読書を楽しみたい人もいらっしゃいますので、そういった方には静寂読書室を設けております。また、コラボセンター1階入口に図書館のゲートを設置しておりますので、図書館のある2階以外の1階から4階までどこでも資料の持ち出し、利用が可能となりますので、さまざまなイベントごとなどで必要な時は資料を持ち出して活用いただくことが可能となります。また、一方でゆっくり滞在して読書する、あるいは自学自習できるスペースとして、館内に現状の庄内図書館の座席数より多めに増やして、そういったスペースを設ける予定でございます。また、拡充という項目にありますように、接続する学校との連携の形としまして、資料の情報提供をこれまでと同様行うほか、外国語資料や児童生徒の部活動資料の充実など学校図書館の蔵書を補完する形での公共図書館の蔵書構成の構築を行い、教職員や児童の学びを支援できるよう取り組みを進めてまいりたいと考えております。

引き続きまして、3頁目でございます。1階には図書館のスペースはございませんが、1階にある他機関とも連携しながら、図書館職員がセンター内の他部局の職員と連携した事業を行うほか、協働事業市民提案制度、この制度はコミュニティ政策課が所管しておりますが、壁面書架やエントランススペースを活用して、さまざまな事業やイベント開催などを含めて、居場所やにぎわいの創出につながるような提案を受けていくと聞いております。1階、2階とも人と人が出会う、情報を得る、交流してにぎわいの場となるよう関係課と連携して検討してまいりたいと考えております。

杉山課長

児童生徒支援機能の内容について、ご説明をいたします。その他(2)の2頁をご覧ください。現在教育センターの7階の教育相談係で行っております相談も含めまして、児童生徒の課題や児童生徒に影響を及ぼす家庭の課題にかかる相談に対応するため、「(仮称)児童生徒総合相談窓口」を設置いたします。臨床心理士をはじめとした専門家による面接および課題の整理を経て支援につなぎ、学校での見守りの継続までを一連の流れとしたしくみ等を整備して課題解決へと導き、学習環境の改善を図ることをめざすものでございます。相談体制につきまして、課題を整理し、連携やコーデ

イネーターをする事務職員を配置する予定で、相談員は臨床心理士、警察OB、校長OB、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどのスーパーバイザーの配置を考えております。仕組みにつきましては、相談内容が複雑かつ重症的なものとなっており、なかなか解決へと進んでいかない内容となっております、施設に同居しております関係部局と連携することによって迅速に支援につなげていきたいと考えております。また、生活困窮者自立支援ネットワークや、他機関との連携も活用しながらの課題解決を想定しております。なお、現在、相談は蛍池にある教育センターまで来ていただかなければなりません、南部コラボが開設されましたら、サテライトとして活用し教育相談も含めて対応していきたいと考えております。

岩元教育長

ただいまの説明について、何かご質問、ご意見等はございますでしょうか。

松本委員

1頁の新規の土日の学習支援事業についてですが、民間の教育機関を公募で選定して指導していただくということですが、なかなか塾とかに行けない子どもたちにとって、非常に良い制度ができると思いますが、どれぐらいの期間、業者が担当されるのですか。また、それをチェックして今後どのようにつながっていくのかについて、決まっていることがあれば教えてください。

弘中次長

令和4年度につきましては、単年度契約と考えております。年度前半に事業者の選定や周知をしまして、下半期に週1回程度20回ほどの連続講座を想定しております。

松本委員

通年ではなく、だいたい年度の後半の実施というのを毎年繰り返されるのですか。

弘中次長

詳細はこれから検討していきますが、今年度はモデル事業ですので、後半に実施する予定ですが、次年度以降は17校に拡大するという見据えてやっておりますので、それに伴いましては、公民館だけで実施できるのかという場所の問題もありますし、松本委員からご指摘のありました期間についても、モデル実施をしながら並行

して検討していく予定にしています。

#### 岩元教育長

今年度につきましては、下半期になるのは契約の関係でやむを得ないと思いますし、17校に拡大した場合に通年行えるのかという問題もあります。ただし、目指すところは通年で17校実施することがこの事業の到達点だと思いますので、そこに向けて段階的でも良いので着実に進めていただくようお願いしたいと思います。

#### 堀田委員

土日の学習支援事業について、講座実施した際に録画をしておいて、子どもたちがいつでも視聴することができるという状況をつくっていけば、全校にこの事業が展開されたとしても、子どものペースで学習できるということを保障できるのではないのでしょうか。公民館が対応することではないかもしれませんが、民間事業者を選定する際にそのことを検討していただければ良いのではないかと思いました。

#### 弘中次長

学習支援事業は、誰でも参加できるものというのがありますので、学習理解状況にばらつきがあることが予想されるため、講師が前に立って教室型で授業を進めるというよりは、少人数でグループに分けたり、指導者が参加生徒のテーブルを回ったりしながら、個々の理解状況に合わせた指導を行うことを想定しております。動画配信がどこまで可能なのかも含めてご意見を参考にさせていただきながら、検討していきたいと考えております。

#### 山野委員

学習支援事業は、生徒の学習理解状況や時期によってばらつきがあることが想定されますので、生徒に応じたものにするのか、動画配信で何度も見ることができるようにするのかについて、下半期のモデル実施の状況を見てからになると思いますが、次年度に向けてご検討をお願いしたいと思います。

あと、「(仮称)児童生徒総合相談窓口」を設置することについて、非常に評価したいと思います。学校現場におりますと、課題が複層していることがあります。学校現場の中でも、教職員や保護者の方とも相談しながら、配置していただいているスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにも助けていただきますが、それでも人数に限りがあったり、支援の形もいろいろ違っておりますので、このような体制で

していただけると本当にありがたいと思います。これをさらに充実していただきたいです。学校現場のみでは限界を感じることもありますので、様々な相談機関を通じて、どこに相談すれば良いのか分からない管理職もおりますので、アドバイスいただけるような形になるとありがたいなと思いました。

あと、図書館についてですが、子どもたちは本当に本が好きですし、横断的な調べ学習にしても、教員だけではなかなか本のセレクトが的確にできないので、専門職の司書の先生がいらっしゃることは豊中市の強みだと思っております。物流もしていただいておりますし、様々な形で発展させていただけるとありがたいです。

#### 黒田委員

私は、池田の子育て支援センターに関わらせていただいているのですが、石橋に公共施設が建て替えられて行って見たのですが、車や自転車などの置き場所がなく、実際、想定していたのとは違うので、現場も困っておられました。南部コラボには様々な施設が入るので、多くの方と話し合ってください、進めていただきたいと思えます。また、図書館の静寂読書室について、子どもにも分かりやすいよう、ネーミングや見せ方も工夫していただけたらと思います。

あと、児童生徒課教育相談係というのは、児童が直接相談にいける場所というイメージでしょうか。

#### 杉山課長

児童・生徒本人および保護者の方にも来ていただき、相談を聞いております。場合によっては合同相談とする場合もあります。

#### 黒田委員

「(仮称)児童生徒総合相談窓口」と書かれても、子どもたちにはハードルが高いので、行きやすいよう工夫をお願いしたいです。警察OBの方など専門家の方がおられてありがたいですが、話しやすいというのが大事だと思います。専門職の配置と同時に、どこに相談したら良いのかが的確にわかるコーディネーターの方を必ず配置していただきたいです。

#### 岩元教育長

今の視点は大事ですし、相談しやすい工夫が不可欠だと思います。

杉山課長

相談室は4室設ける予定となっております。1つ目は四肢の障害のある方に車いすやストレッチャーが入る相談室で、もう1つは教育センターの相談室もそうですが、発達障害の疑いがある方のために、箱庭ですとか、プレイルームとしての機能をもった相談室も設けております。あと、子どもたちが来やすいように、LOVOTのようなロボットを置いて、子どもたちが近づきやすいような、また居場所機能ではないですが、立ち寄りやすい場所、佇んで自分のことを考えたい場所を考えております。

岩元教育長

ほかに何かご質問等ございませんでしょうか。

(ありませんの声あり)

岩元教育長

庄内さくら学園、南部コラボセンターについて、もうすぐオープンということで進めていただいておりますが、委員の皆様からご意見をいただきましたので、それを踏まえて進めていただきたいと思います。

それでは、日程第8・その他についてを終了することにいたします。

以上で公開の会議は終わります。